

7月6日から8日にかけての西日本豪雨は、大雨被害としては、平成で最悪の事態となりました。被災された皆様に心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

本村にも、初めての大雨特別警報が8日未明に発令され、併せて土砂災害情報も発令されたことから、神土の一部に避難勧告を出す事態となりました。幸いにも本村では大きな被害はありませんでしたが、西日本や県内での被害報道を見ますと、防災体制の見直しを常に行い、いつ起こるかわからない災害への備えを怠り無く進めなくてはと強く感じております。

7月には心温まる催しがありました。7月3日に開催された「少年の主張大会とふれあいコンサート」です。

“少年の主張大会”では、5人の児童生徒が、それぞれしっかりと自分の考えを主張し立派な発表でした。この村の将来や自分の夢について子供らしい発想で発表してくれて、聴衆の皆様も感動されたことと思います。毎年思いますが、この村には素晴らしい子ども達が日々成長し続けています。子ども達の夢や意見に耳を傾けて、しっかりと東白川村らしい村づくりに邁進しなくてはならないという勇気をもらえた時間でした。

続いて行われた連合PTA主催の“ふれあいコンサート”では、本村出身の箭内明日香(やないあすか/旧姓杉田)さんのピアノ演奏会が行われ、素敵な演奏を聴くことができました。演奏は無論素晴らしかったのですが、私が感動したのは、東白川中学校卒業後、高校、大学と音楽の道を志し、自分の夢を実現されたことです。中学校の夏休みの課題に作曲したというピアノ曲には、皆様も驚かれたことと思います。天賦の才に加えてそれ以上の努力をされたであろうとは思いますが、合奏した中学生ブラスバンド部の生徒たちも大いに刺激になったことでしょう。

少年の主張大会で、村の人口減少について心配する意見が複数ありました。

先日、美しい村づくり委員会「移住定住に関するワークショップ」で、名古屋大学大学院環境学研究科の高野教授からショッキングなお話がありました。高野教授の研究室で開発された「小地域ごとの簡易人口推計ツール」で、この村の神土、越原、五加の人口の推計をシミュレーションしたわけですが、このまま無為無策のまま10年間で過ぎると、子供の数が極端に減少し、空き家だらけで集落活動が維持できなくなる地域が出てくるというものでした。行政が何かをしてくれるのを待つのではなく、集落の課題として取り組む必要があると高野教授は強調しておられます。

「天下の大患はその大患たる所以(ゆえん)を知らざるに在り。」

これは彼の吉田松陰の言葉ですが、まずは村民の皆様と危機意識を共有する事が大前提です。今後は、村の人口対策としての住環境の整備や空き家対策、移住定住促進策など、今以上に進めなければならないと考えております。

東白川村は無為無策ではないことを、決して村の将来を悲観していないことを、皆様と共有してまいりたいと思っております。

平成 30 年 8 月

東白川村長 今井俊郎